

OCHAHOUSE

Ocha House

2007年度にお茶の水女子大学キャンパスに建設されるユビキタスコンピューティング実験住宅です。

生活者を支援するIT住宅
コンピュータ強化されたキッチン
コミュニケーションを支援する家具
物探しを支援する収納家具
サイバー情報を提示する調度品



ユビキタスコンピューティング実験住宅
Ocha House (仮称)

自然と共生するIT住宅
環境／気象と連携する
サステナブルエネルギーシステム



コンピュータ／ネットワーク対応住宅
コンピュータにより強化された住宅／建具
住宅セキュリティシステム



在宅リハビリ／介護／高齢者支援



人・生活・環境とつながる家

お茶大の実験住宅プロジェクト

椎尾 一郎, 太田 裕治, 元岡 展久

コンピュータが小型、安価になることで、日用品としてのコンピュータ利用が今後ますます進展すると予想されています。このようなコンピュータ利用形態をユビキタスコンピューティングと呼んでいます。

ユビキタスな日用品になったコンピュータが一般的になることで、情報科学の分野において様々な課題が浮かび上がってきます。パーソナルコンピュータの実現により、コンピュータ利用の場は、研究所、工場、企業など、コンピュータ専門家が作業する場所から、一般オフィスやSOHOなどにシフトしました。同様に、近未来において

は、ユビキタスコンピューティングの実現により、家庭でのコンピュータ利用がますます進展すると考えられます。

本プロジェクトではこのトレンドに注目し、家庭において、一般の生活者が必要とするコンピュータの実現をめざし、以下の研究課題に取り組みます。

(1) ユビキタスコンピューティングのアプリケーションの提案

(例えば、キッチンやリビングや家具／日用品などに組み込まれたコンピュータにより、調理支援、探し物支援などの生活支援、遠隔地とのコミュニケーション支援などを実現します)

(2) 情報家電や日用品に組み込まれ

たコンピュータ利用のための新しいインタフェース手法の提案

(3) 生活者の行動分析とこれに基づくアプリケーションの提案

(4) 家庭における高齢者支援やリハビリテーション支援。

(5) コンピュータやネットワークの進化に対応する新しい住宅の提案

(6) 自然と共生する機能をもつIT住宅。

2007年度には、お茶の水女子大学小石川職員住宅跡地に、最新の実験住宅を建設します。

2008年以降、上記のプロジェクトの成果を実験住宅に順次組み込み、公開し、評価実験をすすめます。